

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

出会を通して

「キリストへの時間」協力委員

事業会計（日本キリスト改革派犬山教会信徒） 青山 昭一郎

「キリストへの時間」の放送が始まり、今年で66年になります。この間、長村秀勝委員が事業会計等を担当されてきましたが、神様が協力委員会と私を不思議なかたちで出会わせて下さり、事業会計を引継ぐことになりました。長村委員のこれまでの多大なお働きに心から感謝致します。

神様を信じて生きるということは、あらゆる可能性に開かれた人生を生きることになります。私たちの至らない考えと、私たちの考えの及ぶ小さな範囲の中に留まる神様ではないのです。そのことを私たちは繰り返し聖書によって教えられます。

神様は往々にして、私たちの思いを超えることを、私たちが思いつかないような仕方でも実現されます。時として最悪としか思えない事柄や出来事を通して、それらを用いて、私たちが考えもしなかったようなプロセスを通じて、神様は最善のものを私たちに、それぞれにお与えになる方なのです。

変わりたくても変わりえない自分がここにいます。しかし変えられたくない自分もここにいるのです。

神様は、神様の最も必要とされることを、私たちそれぞれに与えられます。それが私たちにとって苦しみであったとしても、耐え難い苦しみであったとしても、それが必ず良いものに変えられるのだ、という希望の中で、私たちに与えられるのです。そしてそれが変えられていくプロセスの中に、聖霊の働きがあるのです。その聖霊によって、私たちは、神様の基準の中を、神様の御言葉を体現する者として生きることが出来るのです。

キリスト者を激しく迫害したサウロが、使徒パウロへと変えられました。それは聖霊によって私たちが変えられることを予期させる、神様の力の証しでもあります。

教会において御言葉を聞き続ける中で、神様が語られることを聞き、主イエスの十字架と復活の福音を知られる中で、わたしたちにも一人一人、イエス様は名を呼んで出会って下さり、語りかけて下さいます。それは全く、自分の外からの、神様からの恵みの働きかけです。

そして、見るべきものが見えず、神様に逆らい続けていた自分が、福音の光に打ち倒され、そこから主イエスの罪の赦しと、復活の恵みの中で、まったく新たな者として立ち上がられるのです。そして、わたしたちも、なすべきことが与えられ、神様に選ばれた器として、イエス様と共に、新しく歩み出すことが出来るのです。

私たちはキリストに結ばれた者として精一杯生きましょう。神様から与えられた魂と体で心を込めて生きましょう。この私には、私にしかできない神様から与えられた仕事があるはずで、その仕事を果たし終えるまで、神様から与えられたこの体で生きて行きましょう。そして地上の生涯を終える時、私たちがこの体をも神様にお返しするのです。

ラジオ放送「キリストへの時間」を通してイエス様に出会って下さい。

お待ちしております。

賛美歌『主われを愛す』を味わう

名古屋学院大学 キリスト教センター 柳川 真太郎

イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

(マルコによる福音書 10章 13～16節)

『讃美歌 21』484番「主われを愛す」という賛美歌は、日本で最初に翻訳された賛美歌の一つとして知られています。英語の原題は「Jesus Loves Me!」と言います。「Jesus loves me, this I know, for the Bible tells me so.」というのが、元々の歌詞の冒頭部分です。「イエスはわたしを愛してくださっている、そう聖書はわたしに伝えてくれている」という歌詞になっています。

(讃美歌 21 484)

主われを愛す、主は強ければ、
われ弱くとも 恐れはあらず。
わが主イエス、わが主イエス、
わが主イエス、われを愛す。

(口語訳)

愛の主イエスは 小さいものを
いつも愛して 守るかたです
聖書は言う、イエスさまは
愛されます、このわたしを

この賛美歌が初めて日本で翻訳されたのは、1872年…今から140年以上も前のことです。「ジュリア・クロスビー」という女性宣教師によって翻訳されたのが、この賛美歌でした。当時、この歌詞の冒頭は、このように訳されていました。「エスワレヲ愛シマス、サウ聖書申シマス」。“ですます”調で翻訳されているところに、賛美する対象である神への敬意、また不慣れな日本語で翻訳しようとした外国人宣教師の努力の痕跡が見て取れます。ただ、残念なことに、彼女の邦

訳は、旋律に比べて文字数が多く、実際に歌うには適していなかったため、後に公表された、ルーミスと奥野、この二人による改訂版の歌詞の方が、広く歌われていくこととなりました。その後も、この賛美歌の歌詞は何度か改訂が続けられていったのですが、ある時から「The Bible tells me so.」(聖書はそう私に伝えてくれている)という部分が省略されるようになりました。そこで、現在多くの教会で用いられている『讃美歌 21』という賛美歌集では、その部分を訳出した口語訳の歌詞が収録されることとなりました。原歌詞の優しい雰囲気が伝わってくる、そのような翻訳に仕上がっています。

さて、続いては、この賛美歌の作詞者についてお話しましょう。原題「Jesus Loves Me!」の作詞者は、アメリカに住むアナ・バートレット・ウォーナーという女性でした。ウォーナー一家が住んでいた家の近くには、アメリカ陸軍の士官学校があったのですが、彼女は、姉のスーザン・ウォーナーと共に、士官学校に通う生徒たちを対象にした「バイブルクラス(つまり聖書の勉強会)」を開いていました。彼女たちが、その士官学校の生徒たちから慕われていたであろうことは、彼女たちのバイブルクラスが60年間も続けられていたという事実を通して容易に想像することが出来ます。そして何より、その60年という年月は、士官学校の生徒たちに向けられた、アナやスーザンの熱い思い、信仰教育に対する情熱の大きさというものを、そのまま表しているものと言えるでしょう。

アナはとりわけ、子どもたちへの愛情というものを人一倍持っていたようです。彼女は、姉のスーザンと同様、文筆家としての才能に恵まれていて、多くの文学作品を世に送り出してきたのですが、彼女の作品というのは、主に、子どもたちをテーマにしたものが多かったそうです。アナは、1859年、愛する子どもたちへの思いを、一つの詩にしたためました。その詩は、姉のスーザンが書いた、とある小説の中で引用されることとなるのですが、その詩の存在を知った、一人の音楽家「ウィリアム・ブラッドベリー」によって

曲がつけられたことにより、瞬く間に、アメリカ全土で歌われるようになりました。それが、「Jesus Loves Me!」だったのです。

日本語の歌詞には訳出されていないのですが、元々の歌詞には、子どもたちを御もとへと招くあのイエス・キリストの姿が映し出されています。先ほどお読みいただいた聖書の物語にも見られるように、イエス・キリストは、当時、大人未満・未熟な人間としか見られていなかった「子どもたち」のことを、尊い存在であると見なし、「神の国はこのような者たちのものである」と高らかに宣言しました。曇りのない眼差し、純真な心を持つ子どもたち。イエスは、そのような子どもたちこそ、神の国にふさわしいのだ…、大人である私たちは、子どもにこそ倣わなければならないのだと、そのように人々に伝えたかったのではないのでしょうか。アナやスーザンもまた、イエスのそのような思

いをしっかりと受け取っていたからこそ、子どもたちをテーマにした文学作品を数多く世に残し、特に、戦場へと赴いていくかもしれない士官学校の生徒たちへの信仰教育というものを、熱心に、人生をかけて続けていくことができたのだらうと想像します。

「Jesus Loves Me!」(主われを愛す)。小さい子どもでもきっとすぐに覚えることのできる、この言葉は、短くシンプルに、しかしはっきりと、私たちが信じるべき事柄を言い表してくれている、“信仰告白”の言葉であると、私は理解しています。わが主なるイエスは、この私のことを、また、あなたのことを、この上なく愛してくださっている。そのような主の愛に、あなたは、私は、どう応えて生きていくのでしょうか。子どものように純粋に、イエスの御声に聞き従って歩む、そのような私たちでありたいと願います。

(7月22日放送原稿より)

アナウンサーとして 言葉を紡ぐむずかしさ

「キリストへの時間」アナウンサー (日本基督教団金城教会信徒) 栗原 廣子

「おはようございます。栗原廣子です。お元気でお過ごしでしょうか！街の中も少しずつ秋色になって来ました。おだやかな色目が心やさしく包んでくれます。この季節は寒暖差が出やすい時です。皆様の健康が守られますようお祈り致します。」

上記に書いた言葉はアナウンサーの第一声の言葉です。放送をお聞き頂いた方々は、11月4日(日)放送分と覚えて頂いている方もおられるかと思えます。お気付きの方もおられるかと思えますが、現在3名のアナウンサーで月替わりで担当しております。

大野典子姉(日本キリスト改革派教会)、小幡美智子姉(日本キリスト改革派教会)、私、栗原廣子(日本キリスト教団)です。

私たちはそれぞれに自分のフィールドワークの中で感じた事や思いを30~40秒程でお話させて頂いております。時間制約の中で、放送週に合わせた言葉を紡ぐことがいつも頭を悩ませます。放送を収録してから、時によりますが2週~1ヵ月後(最終週は2ヶ月位後)に放送されるので、季節の変化や空気感をお

伝えする時がとても気を使い、言葉を選びながら収録に立ち向かっています。

又、放送迄の間に、自然災害等が発生した時に、災害にあわれた地域や皆様に寄り添った言葉を即座にお伝えできないことも多々あります。

私は、クリスチャンでないリスナーの方々も多くおられると思い、できるだけクリスチャン用語を使わないようにしています。もし使う場合は少しわかりやすい言葉でお伝えするよう気を付けていますが、心配りできない時もあります。30秒~40秒でお伝えする難しさをいつも痛感しております。

2001年2月放送担当から18年になろうとしています。今迄通り、私らしさを出しながら、より皆様に寄り添った言葉を紡ぐことができるよう願っています。又、収録の際には、説教される先生方がお話ししやすい様、できるだけ平常心を保ち、緊張感の中にも笑顔を忘れないようにしつつ、後しばらく、神様のはげましの中で続けてゆけたらと思っています。

皆様後少しお付き合いいただけたら幸いです。

主は確かに御手を伸べ

長村秀勝兄の後を引き継ぎ、リスナーからのお便りを受け取る係になりました。私書箱がある名古屋東郵便局は、私がお仕える名古屋北教会からほど近くにあり、今のところ1～2週間に一度郵便局に立ち寄っています。レスポンスの多くは、初めての方からの「聖書を送ってください」とのお便りです。この2か月ほどの間に、三河、尾張、飛騨、伊勢などにお住まいの方々へ聖書を贈呈しました。

ラジオを通してこちらから語りかける際にはリスナーの顔を拝見することはできません。それだけ

に、私書箱の扉を開いてハガキを目にすると、主が放送を通して私たちの知らない方にまで確かに御手を伸ばし、触れてくださっていると知らしめられます。この瞬間は大きな喜びです。

エチオピアの宦官が「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」（使徒言行録8：31）と言ったように、聖書を読むには聖霊の助けと、教会による手引きが必要です。主がそのために放送を用いてくださり、聖書を読まれる方々が教会へつながり、キリストに結ばれますようにと祈りつづけていきたいと思えます。

「キリストへの時間」協力委員 山田詩郎



「キリストへの時間」放送予定 2019年1月～6月

1月

6日 伊豆倉明美（日本キリスト改革派関キリスト教会会員）
13日 伊豆倉明美（日本キリスト改革派関キリスト教会会員）
20日 吉住隆弘（日本キリスト改革派豊明教会会員）
27日 吉住隆弘（日本キリスト改革派豊明教会会員）

2月

3日 落合建仁（金城学院大学文学部宗教主事）
10日 落合建仁（金城学院大学文学部宗教主事）
17日 吉松純（金城学院大学人間科学部宗教主事）
24日 吉松純（金城学院大学人間科学部宗教主事）

3月

3日 吉澤永（日本基督教団愛知教会牧師）
10日 吉澤永（日本基督教団愛知教会牧師）
17日 松本のぞみ（日本基督教団中京教会牧師）
24日 松本のぞみ（日本基督教団中京教会牧師）
31日 田口博之（日本基督教団名古屋教会牧師）

4月

7日 松田基教（日本キリスト改革派多治見教会牧師）
14日 松田基教（日本キリスト改革派多治見教会牧師）
21日 長谷川潤（日本キリスト改革派四日市教会牧師）
28日 長谷川潤（日本キリスト改革派四日市教会牧師）

5月

5日 村山盛芳（日本基督教団南山教会牧師）
12日 村山盛芳（日本基督教団南山教会牧師）
19日 山田詩郎（日本基督教団名古屋北教会牧師）
26日 山田詩郎（日本基督教団名古屋北教会牧師）

6月

2日 沖崎学（金城学院高等学校宗教主事）
9日 沖崎学（金城学院高等学校宗教主事）
16日 後藤田典子（金城学院中学校宗教主事）
23日 後藤田典子（金城学院中学校宗教主事）
30日 小室尚子（金城学院宗教総主事）

「キリストへの時間」協力委員会 編集発行人 田口博之

郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたはかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送